

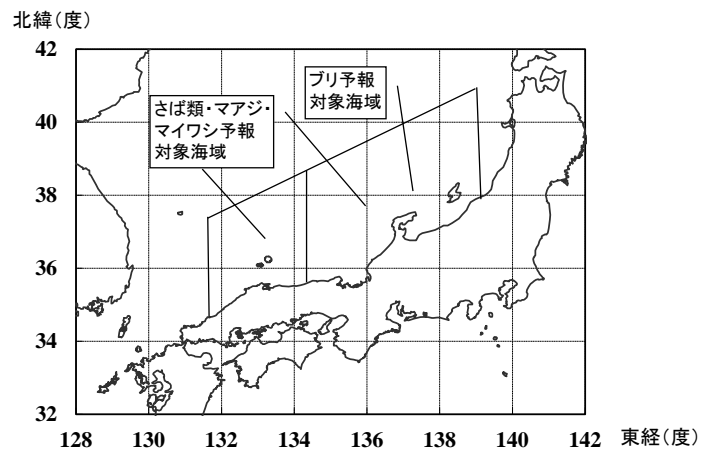
平成29年度 日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(平成29年11月～平成30年3月)のポイント

漁況(来遊量)

- (1) さば類(島根県～新潟県)
前年並
- (2) マアジ(島根県～新潟県)
前年並
- (3) マイワシ(島根県～新潟県)
前年並
- (4) ブリ(兵庫県～新潟県)
0歳魚は前年並
2歳以上魚は前年並



※「前年」は2016(平成28)年11月～2017(平成29)年3月

※予報期間におけるブリの1歳魚は、主漁期から外れ漁獲量が少ないため、予測対象から除外

問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 日本海区水産研究所

担当：業務推進部 加藤、江連

担当：資源管理部 上原、後藤、松倉、古川、久保田

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.fra.go.jp/>

平成29年度 日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報

今後の見通し（2017年11月～2018年3月）

1. さば類（島根県～新潟県）
0歳魚（2017年級群）と1歳魚（2017年級群）が主体、来遊量は前年並
2. マアジ（島根県～新潟県）
0歳魚（2017年級群）と1歳魚（2016年級群）が主体、来遊量は前年並
3. マイワシ（島根県～新潟県）
0歳魚（2017年級群）が主体、来遊量は前年並
4. ブリ（兵庫県～新潟県）
0歳魚（2017年級群）：前年並
2歳以上魚（2015以前年級群）：前年並

※「前年」は2016年11月～2017年3月

※予報期間におけるブリの1歳魚は、主漁期から外れ漁獲量が少ないため、予測対象から除外

I 予報の説明

漁況の経過（2017年1月～9月）および今後の見通し

1. さば類（図1、図2）

●2017年1月～9月の経過

日本海で漁獲されるさば類は、東シナ海と日本海の間を回遊する対馬暖流系群の一部である。島根県～新潟県の主要港におけるさば類の漁獲量は、ここ10年間では2008年～2009年と2011年～2012年、そして2014年～2016年に多く、2010年と2013年に少なかった。2017年1月～9月における漁獲量は26,900トンで、前年同期（19,900トン）を上回り、さらに過去5年（2012年～2016年）平均（16,900トン）を上回った。

府県別では、全体に占める割合が大きい鳥取県および島根県（まき網）の漁獲量は、過去5年（2012年～2016年）平均と比較すると、1月はほぼ同程度であったが、2月は2.4倍、3月は2.3倍と多かった。中部以北におけるまき網ほか（主体は石川県と新潟県）の漁獲量は、5月～6月、8月～9月で前年を上回った。一方、兵庫県以北の定置網の漁獲量は、4月を除き1月～5月にかけて、前年を下回り、6月以降は過去2年間と同様の漁獲動向であった。

●資源状態と年級群の豊度

「平成29年度 第1回 対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁海況予報」（西海区水産研究所）によると、マサバ対馬暖流系群の年級群毎の豊度は、2015年級群は2014年級群並で、2016年級群は2015年級群を下回るとみられている。なお、2017年級群は2016年級群を上回ると考えられている。

●今後の見通しについて

例年、日本海の漁獲量については、鳥取県および島根県のまき網の占める割合が大きく、11月～3月には0歳魚と1歳魚が漁獲の主体となる。前年と比べ、0歳魚（2017年級群）の豊度は高いものの、1歳魚（2016年級群）の豊度は低いと推察されるため、予報期間における来遊量は前年並と予想される。

2. マアジ（図3～図5）

●2017年1月～9月の経過

日本海のマアジは主にまき網と定置網によって漁獲されており、2003年～2015年における島根県～新潟県の主要港における漁獲量は、30,400～67,700トンの範囲で推移した。2016年の漁獲量は最低であった2015年の漁獲量30,400トンをやや上回り31,200トンであった。2017年1月～9月の漁獲量は24,700トンで、前年同期（24,400トン）ならびに2015年同期（25,500トン）並であった。

●資源状態と年級群の豊度

日本海で漁獲されるマアジは対馬暖流系群の一部である。漁獲の動向は同系群の資源状態と密接に関わっており、0歳魚と1歳魚が主に漁獲される。新規加入する0歳魚を主対象として、2003年以降、日本海西部海域にてマアジの新規加入量調査を実施しており、その結果からマアジの加入量指標値(来遊の多寡)を算出している。来遊量の多かった2003年を1としたとき、2017年は2.72(暫定値)で過去最高値となった2014年の3.03に次ぐ値であり、2016年の2.20を越えた。2017年は2014年に次ぐ高い値であったことから、2017年級群の豊度は2014年級群には及ばないものの、2016年級群を上回ることが推察された。

●今後の見通しについて

予報期間(11月～3月)における日本海では、例年0歳魚と1歳魚が主体で2歳魚以上も漁獲されている。2017年の新規加入量調査による加入量指標値は前年を上回り、0歳魚(2017年級群)および1歳魚(2016年級群)の豊度は前年より高いことが予想される。一方、2歳魚(2015年級群)の豊度は前年よりも低いと考えられ、2017年1月～9月の漁獲量は前年と同程度であった。以上のことから、予報期間における0歳魚および1歳魚の豊度は前年を上回ると考えられるが、来遊量は前年並と予想される。

3. マイワシ(図6、図7)

●2017年1月～9月の経過

日本海におけるマイワシの漁獲量は2010年までゆるやかに増加傾向を示していたが、2011年に急増し30,000トンを超えた。2012年はやや減少したものの、2013年には2011年の倍近い約59,000トンとなった。その後漁獲量は、極めて低い水準であった2014年を除き、2015年以降減少傾向にある。2017年の漁獲量は4月～5月に前年を下回ったが、6月以降は鳥取県のまき網を主体に前年を上回った。

●資源状態と年級群の豊度

2016年級群の豊度は2015年級群並で、2017年級群は鳥取県における直近の漁況の推移から2016年級群並～上回ると考えられる。

●今後の見通しについて

例年、11月～3月には0歳魚が漁獲の主体となり、1歳魚以上も漁獲される。2017年における0歳魚の豊度は前年並～上回ると考えられるものの、予報期間における来遊量は前年並と予想される。

4. ブリ(図8～図10)

●2017年1月～9月の経過

2000年～2010年における兵庫県～新潟県の主要定置網の漁獲量は5,000～8,600トンであったが、2011年は12,200トンとなり、2000年以降では最高となった。2012年には7,400トンに減少したが、2014年に再び1万トン以上(11,000トン)に達した。2017年1月～9月における漁獲量は4,400トンで、前年同期(5,000トン)および過去5年(2012年～2016年)平均(6,200トン)を下回った。

2017年の年齢別の漁況経過をみると、0歳魚の漁獲量(7月～9月)は1,000トンで、前年同期(1,000トン)および過去5年平均(900トン)並であった。1歳魚の漁獲量(4月～9月)は1,400トンで、前年同期(2,100トン)および過去5年平均(3,000トン)を下回った。2歳以上魚の漁獲量(4月～9月)は1,400トンで、前年同期(1,700トン)を下回ったが、過去5年平均(1,200トン)を上回った。

●資源状態と年級群の豊度および今後の見通しについて

0歳魚(2017年級群)の7月～9月の漁獲量は前年と同様であったことから、11月～3月の0歳魚の来遊量は前年並と予測される。

1歳魚(2016年級群)の予報対象海域における主漁期は4月～8月で、予報期間中の漁獲量は例年少ないため(過去5年平均は219トン、範囲は100～300トン)、予測対象から除外した。

2歳以上魚(2015以前年級群)の4月～9月の漁獲量は前年を下回ったものの、前年比82%であったことから、11月～3月の2歳以上魚の来遊量は前年並と予測される。

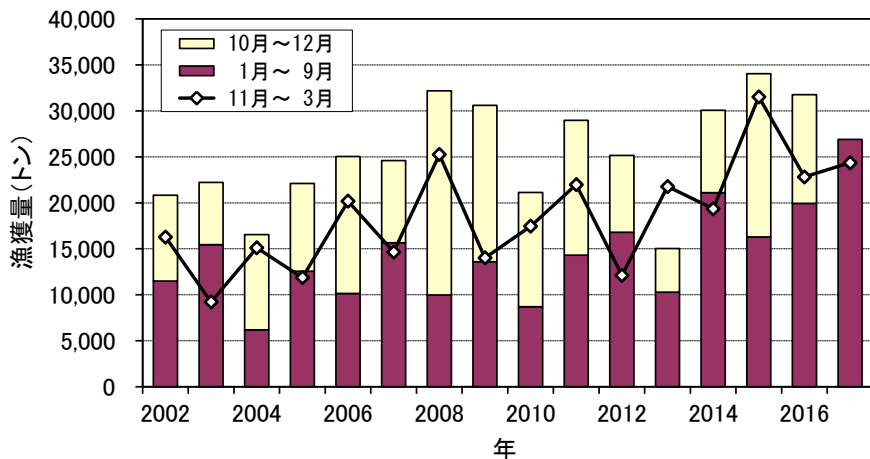


図1 島根県～新潟県におけるさば類の漁獲量の推移（2017年は9月まで）
折線は予報期間と同じ11月～翌年3月の合計。

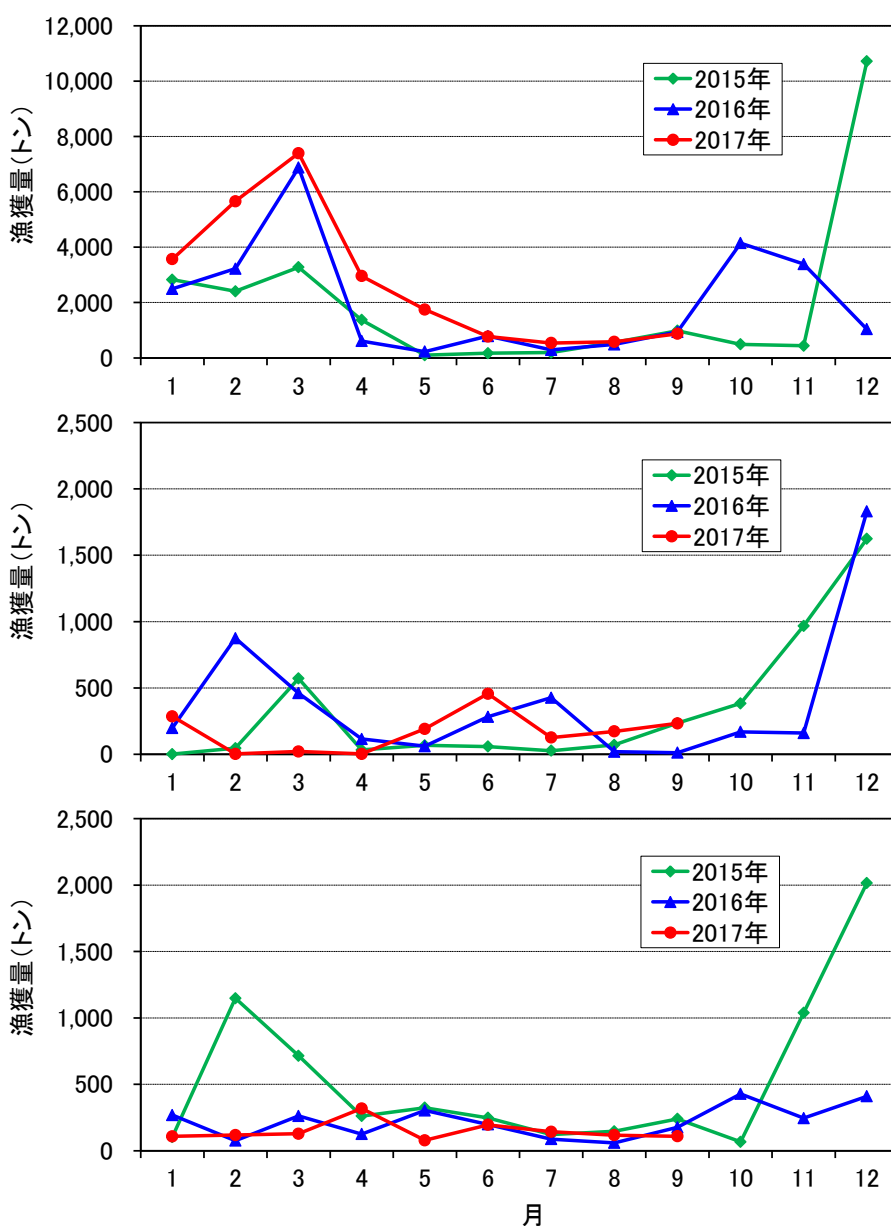


図2 2015年～2017年におけるさば類の月別漁獲量の推移（2017年は9月まで）
上：島根県～鳥取県（まき網）
中：兵庫県～新潟県（まき網ほか：定置網以外を集計）
下：兵庫県～新潟県（定置網）

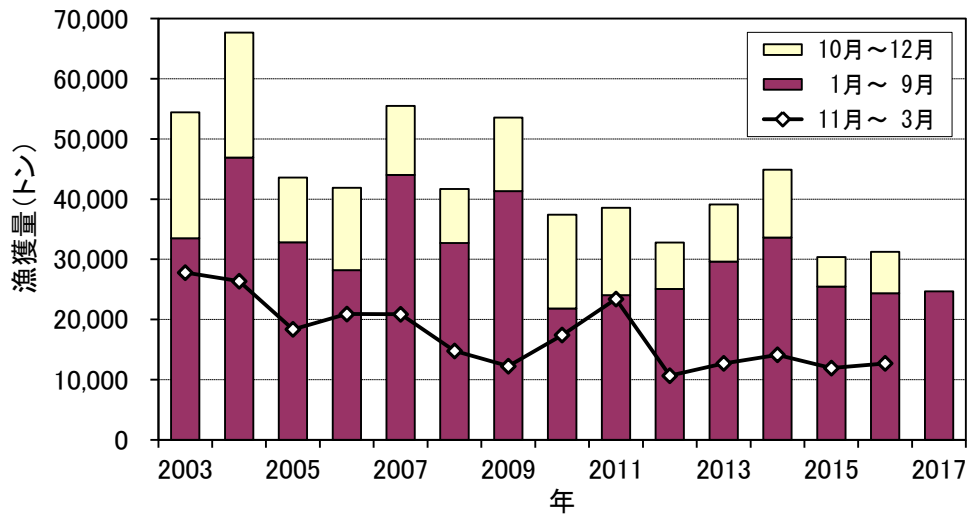


図3 島根県～新潟県におけるマアジの漁獲量の推移（2017年は9月まで）
折線は予報期間と同じ11月～翌年3月の合計。

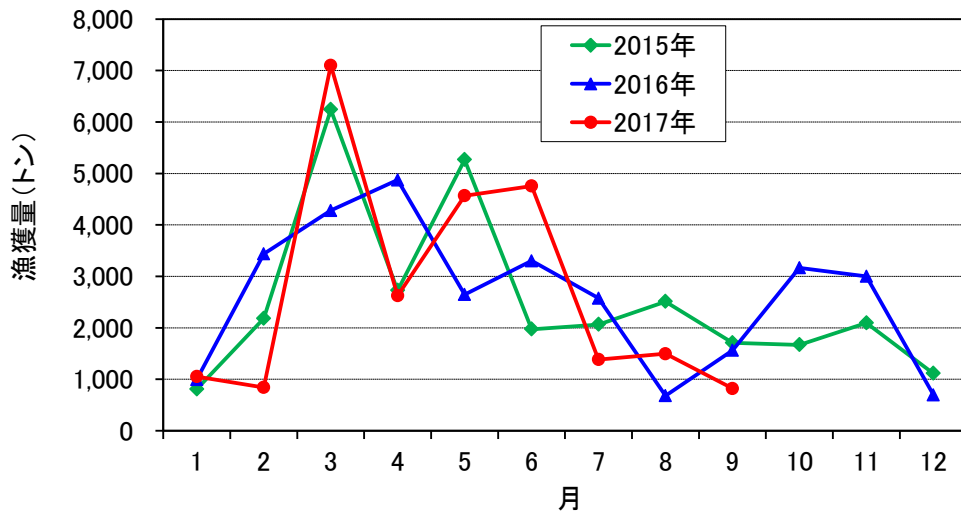


図4 2015年～2017年の島根県～新潟県におけるマアジの月別漁獲量の推移（2017年は9月まで）

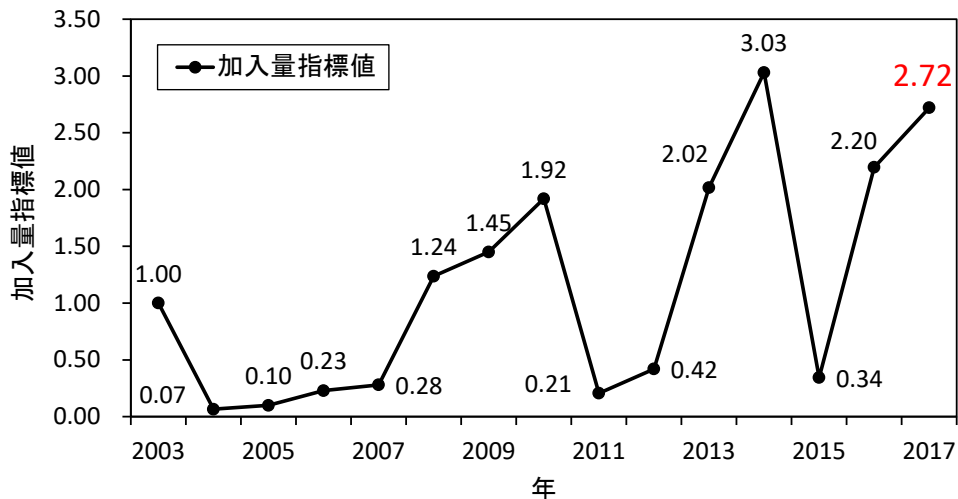


図5 新規加入量調査によるマアジ加入量指標値の推移（2003年を1とした）

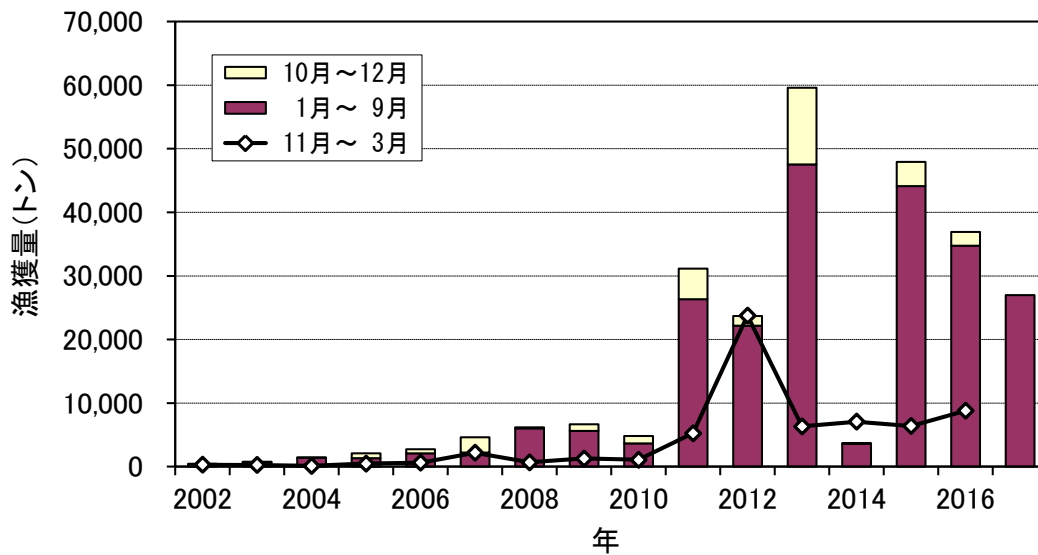


図6 島根県～新潟県におけるマイワシの漁獲量の推移（2017年は9月まで）
折線は予報期間と同じ11月～翌年3月の合計。

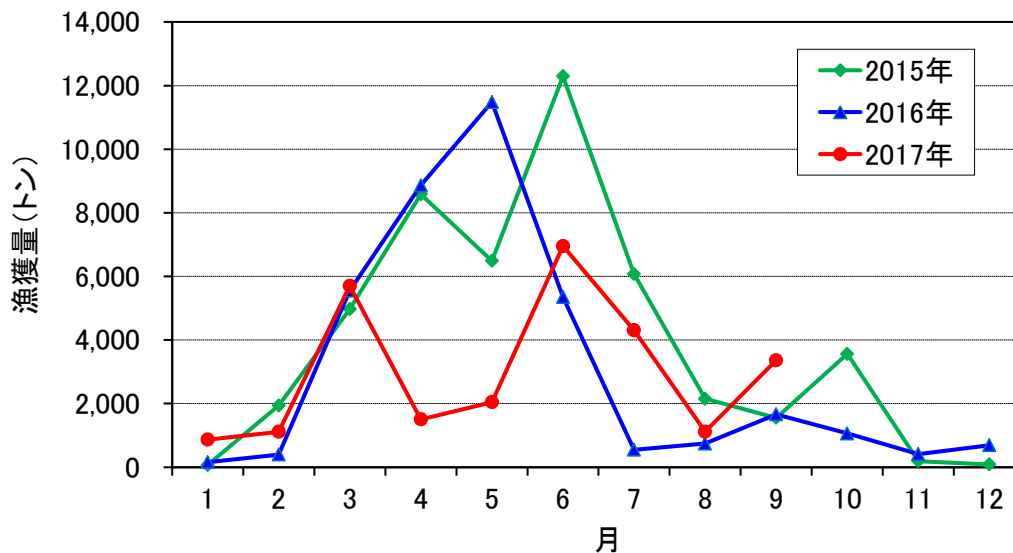


図7 2015年～2017年の島根県～新潟県におけるマイワシの月別漁獲量の推移
(2017年は9月まで)

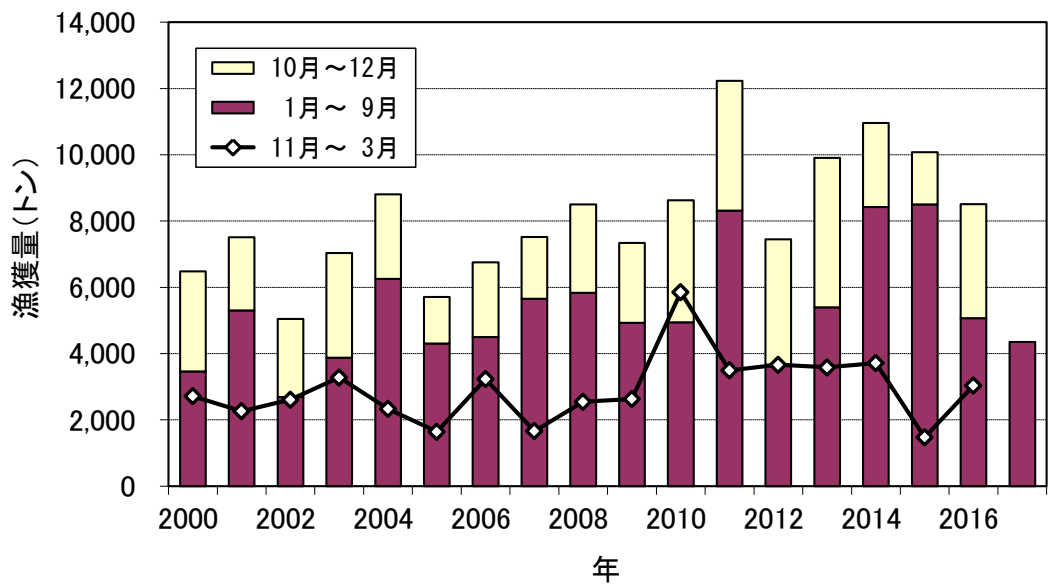


図8 兵庫県～新潟県の主要港におけるブリの定置網漁獲量の推移（2017年は9月まで）
折線は予報期間と同じ11月～翌年3月の合計。

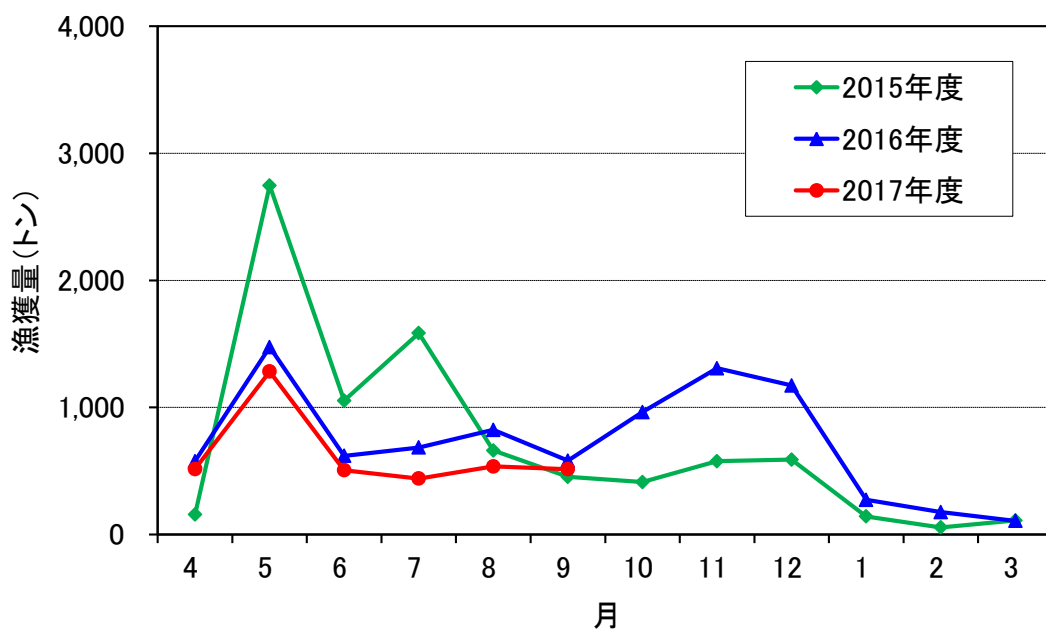


図9 2015年度～2017年度の兵庫県～新潟県におけるブリの定置網月別漁獲量の推移
(2017年度は9月まで)

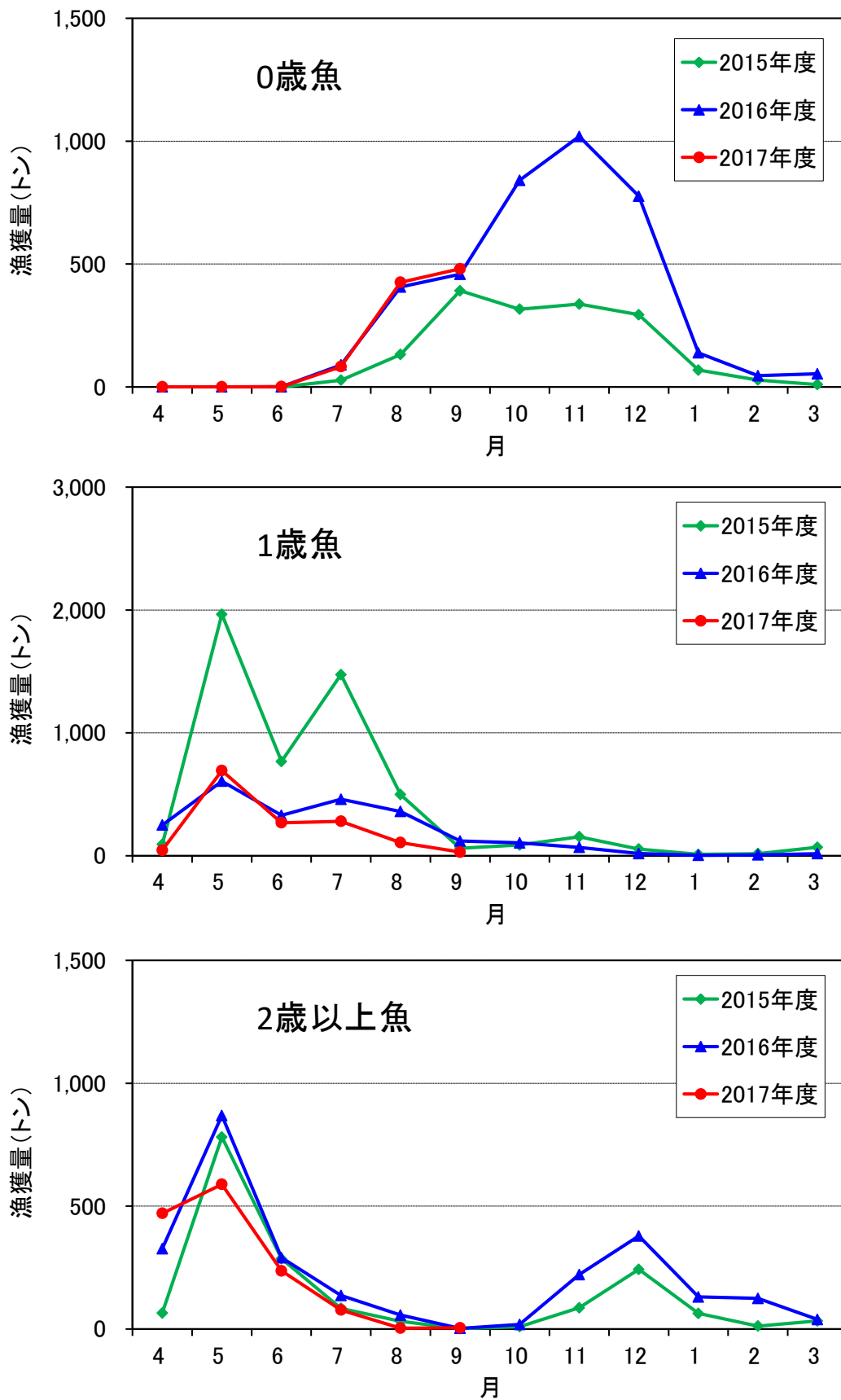


図10 2015年度～2017年度の兵庫県～新潟県におけるブリの定置網月別漁獲量の推移 (2017年度は9月まで)

参 画 機 関

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
秋田県水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 西海区水産研究所
石川県水産総合センター	(取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 日本海区水産研究所
福井県水産試験場	
京都府農林水産技術センター 海洋センター	